

あいち新世紀自動車環境戦略の改定について

1 新たな戦略の考え方

- 自動車は人や物の輸送に必要不可欠な交通手段であり、我々の生活を豊かにしている一方で、大気汚染、騒音、地球温暖化など、環境に様々な影響を及ぼしており、旧戦略で目標としていた二酸化窒素に係る大気環境基準の達成など、一部の目標が非達成であり、さらなる環境対策が必要である。
- 自動車産業、自動車利用が盛んな愛知においては、環境と自動車利用が調和する自動車社会を目指していく必要がある。
- 国においては新たな自動車環境対策が示されるとともに、次世代自動車の開発・改良が進み、電気自動車やプラグインハイブリッド自動車実用化された。加えて、これらに搭載されている電池を蓄電池として活用するといった自動車利用の多様化など、自動車社会が大きく変化しつつある中、東日本大震災以降、石油や天然ガスなどエネルギー資源の安定的な確保の問題を含め、エネルギー対策の面からも自動車に対する関心はさらに高まっている。

以上のような状況を踏まえて新たな自動車環境戦略を策定し、県民、事業者、NPO、行政機関が協力して施策に取り組んでいく必要がある。

2 戦略の内容（素案）

(1) 名称

あいち自動車環境戦略 2020（仮称）

(2) 目標年度

2020 年度

(3) めざす将来像

安心・快適な暮らしを支え、環境と自動車利用が調和した自動車社会

(4) 社会の姿

めざす将来像に向けて次の4つの社会の姿の実現をめざす。

（これらの社会を実現するため自動車環境対策との関係は参考を参照）

① 環境に優しい自動車が普及した社会

- ・大気汚染物質や温室効果ガスの排出が少なく、環境への負荷が少ない自動車が普及している社会

② 澄んだ空気の中で安心して生活できる社会

- ・自動車交通による大気汚染や騒音等の生活環境への影響が改善されることにより、良好な生活環境が保たれ、人々が快適に安心して暮らすことができる社会

③ 環境負荷の少ないスマートな交通システムを実現する社会

- ・渋滞の少ない、円滑な道路交通が確保され、人々の移動や物流において過度に自動車を利用せず、効率的な自動車利用がなされるなど、環境への負荷の少ない交通システムが実現している社会

④ 環境に配慮した自動車利用が広く行われている社会

- ・環境に配慮した運転を実践するなど、自動車環境に関する高い意識を持って行動する社会
- ・電気自動車やプラグインハイブリッド自動車を電気使用ピーク時に蓄電池として利用するなど、自動車が環境対策としても役立つ社会

(5) 環境目標

自動車に関連した環境指標として大気、騒音及び温室効果ガスを取り上げ、それぞれに目標を設定する。

① 二酸化窒素

- ・大気環境基準 100%達成（交差点近傍など常時監視測定局以外も含む）

② 浮遊粒子状物質

- ・大気環境基準 100%達成（交差点近傍など常時監視測定局以外も含む）

③ 騒音

- ・騒音環境基準 100%達成

④ 温室効果ガス

- ・運輸部門からの排出量 12%削減（1990 年比）

3 戦略の構成（案）

別紙のとおり

4 今後のスケジュール（案）

平成 24 年 1 月 27 日	総合調整会議
3 月上旬～中旬頃	素案の送付、内容検討
3 月下旬～4 月中旬頃	総合調整会議
4 月下旬～5 月中旬頃	パブリックコメント（30 日間）
6 月上旬頃	総合調整会議
6 月中旬頃	戦略会議、戦略策定

<参考> 「めざす将来像」に向けた「社会の姿」と自動車環境対策の関係

